

# テロを想定した訓練の実施報告書

(業務報告)

2001年12月  
核燃料サイクル開発機構  
東海事業所

本資料の全部または一部を複写・複製・転載する場合は、下記にお問い合わせください。

〒319-1184 茨城県那珂郡東海村村松4番地49  
核燃料サイクル開発機構  
技術展開部 技術協力課

Inquiries about copyright and reproduction should be addressed to:  
Technical Cooperation Section,  
Technology Management Division,  
Japan Nuclear Cycle Development Institute  
4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki 319-1184,  
Japan

© 核燃料サイクル開発機構  
(Japan Nuclear Cycle Development Institute)  
2001

2001年12月

# テロを想定した訓練の実施報告書

(業務報告)

野田喜美雄\* 齋藤亨\* 福本雅弘\*

## 要旨

昨年9月11日の米国同時多発テロは、我々に極めて大きな衝撃を与えた。核燃料サイクル開発機構東海事業所においても、テロ対応体制の現状と課題を把握し、もってテロ対応の充実を図ることを目的に、2回のテロ対応訓練を実施した。第1回は放火対応訓練、第2回は傷害対応訓練を行った。対テロ訓練の結果、認識された課題と今後の対応は以下のとおり。

### (1) 危機意識の保持

テロはいつ、どのような形で発生するのかわからないという危機意識を自覚するために、テロ対策について教育・訓練を実施する。

### (2) テロ対応体制の構築

警備体制強化を図るために、従業員の中から追跡班、警備班等を組織し、不測の事態に備える体制を構築する。

### (3) テロ対応装備の整備

警察が来るまでの対応を強化するために、警備員にカラーボール、警棒、さすまた、盾、防刃チョッキ等の装備を配備する。

### (4) マニュアルの整備、徹底

一般従業員の対応をより実効あるものにするために、一般従業員向けのテロ対応マニュアルを作成し、訓練を実施する。

---

\* 保安管理部危機管理整備室

# Report on the trainings for terrorism

(Document on Present State of Affairs)

Kimio Noda\* Toru Saito\*,and Masahiro Hukumoto\*

## Abstract

A series of attacks on America by terrorism on September 11, 2001 gave us a terrible shock.

Two types of training against the act of terrorism had been held in Tokai Works of the Japan Nuclear Cycle Development Institute (JNC) to grasp the present situation of JNC Tokai Works and improve the countermeasure against the terrorism.

The first training was for the incendiarism and the second one was for the injury.

Consequently the revealed points to be improved were the followings.

(1) Keeping a sense of crisis

The countermeasure against terrorism should be instructed and trained to realize the sense of crisis, that is, uncertainty of the time and the kind of terrorism.

(2) Organization of the structure against the terrorism

The structure for the contingency should be organized to strengthen the guard structure by forming the pursuit team, the guard team and so on constituted by JNC's staff members.

(3) Preparation of equipments against the terrorism

The coloring ball, club, two-pronged weapon, shield, knifeproof vest and so on should be provided the guards of to strengthen the countermeasure before the police's arrival.

(4) Preparation and announcement of manuals

The manuals against terrorism for the ordinary stuff members should be prepared and used in the training to make the ordinary stuff's countermeasure more effective.

---

\* Emergency Planning Section Safety Administration Division

目 次

1	はじめに	1
2	訓練概要	1
2.1	放火対応訓練	1
2.2	障害対応訓練	1
3	結果	2
3.1	結果概要	2
3.2	訓練結果要点	2
4	課題と対応	3
5	おわりに	4
	表 1	5
	表 2	6
	写真 1	7
	写真 2	8

## 1 はじめに

昨年9/11の米国同時多発テロは、原子力施設の警備を担当する部門に対しても極めて大きな衝撃を与えた。東海事業所においては、周辺監視区域に2重フェンスを巡らし無用な者の侵入を防止するとともに、正門及び田向門において構内立ち入り者の確認を実施しているところである。しかしながら、この同時多発テロを契機に、当事業所においてもテロの発生に対し、より具体的な対応が急務となった。従来から、核物質防護の観点からテロ対応シナリオ訓練も一部実施してきたものの、机上訓練が中心であり必ずしも実効性のあるものとはなっていなかった。このような背景から、当事業所のテロ対応体制の現状と課題を把握し、もってテロ対応の充実を図ることを目的に2回のテロ対応訓練を実施した。

なお、テロ対応訓練は、初めて実施するに等しいので、極めて初歩的な想定を設定した。また、同時多発テロ以降関東管区機動隊が24時間体制で警備に就いてくれているので、この機会に訓練にも参加協力いただくことにした。

## 2 訓練概要

### 2.1 放火対応訓練

#### (1) 日時

平成13年10月11日(木)15:40～16:40

#### (2) シナリオ概要

不審者1名が第1食堂に侵入し、カウンター越しに火炎瓶を投げ入れ放火し逃走した。食堂従業員は、非常用電話で事業所通報連絡者に通報するとともに、消火器で初期消火した。その後、出動した自衛消防隊が放水し、火災は鎮圧する。消火作業中、食堂従業員1名が火傷を負い、村消防本部救急車で搬送される。一方、逃走した犯人に対しては、従業員と警備員が追跡、捜索にあたり駆け付けた警察と協力し、所内に潜む犯人を発見逮捕する。

なお、モニター役等スタッフを除き、シナリオは秘匿した。

#### (3) 実施主体

運営管理部・・・36名(うち食堂従業員 13名)

保安管理部・・・13名(警備員)

訓練スタッフ・・・9名

事故対策本部要員・・・70名

### 2.2 傷害対応訓練

#### (1) 日時

平成13年11月12日(月)10:30～11:30

#### (2) シナリオ概要

不審者1名が車に乗って正門警備員の制止を振り切り構内に侵入した。正門は、直ちに非常用電話で事業所通報連絡者に通報するとともに、侵入者の追跡を行ったが見失う。

その後、不審者は安管棟に侵入したところをロビーで職員に発見され声を掛けられたので、逆に切り付け逃走した。犯人は、構内を逃げ回った後、車両をF棟に乗り捨て徒

歩で田向門から逃走しようとしたが、田向門警備員に制止され通報で駆け付けた機動隊に逮捕される。

本訓練は、東海事業所に警備のため駐在している管区機動隊の協力を得て実施した。  
なお、今回も詳細なシナリオの配付はしなかった。

### (3) 実施主体

放射線安全部・・・35名

保安管理部・・・50名（警備員）

管区機動隊・・・4名

事故対策本部要員・・・70名

## 3 結果

### 3.1 結果概要

放火対応訓練及び傷害対応訓練のシナリオ、時系列概要を表1及び表2に示す。  
また、訓練の様子を写真1及び写真2に示す。

### 3.2 訓練結果要点

#### (1) テロ発生可能性とテロ対応力不足の認識

10月及び11月と2ヶ月連続して実施した対テロ訓練は、当事業所従業員（特に警備員、事故対策本部要員）に対し、爆破、銃撃等に至らない事象も含めてテロが起こりうることを強く認識させた。

訓練後の講評でも、管区機動隊中隊長よりサイクル機構全体のテロ対応取り組みの必要性、充実を求められた。

#### (2) テロ対応体制の不備

訓練想定事象に対し、警備、追跡(連絡含む)、従業員保護等テロ対応についての周知が不十分だったために、不審者の追跡・逮捕はもとより、従業員の安全確保、重要施設の警備等についても有効な対応が全くなされなかった。

実際、事故対策本部が立ち上がり、不審者侵入を構内放送で呼びかけるまでの間は、従業員は不審者の侵入に対し全く無防備であった。また、不審者の追跡についても、連携を持ちながら組織的に行う必要があった。

#### (3) テロ対応装備の欠如

訓練の中で、不審者の追跡、施設警備、捕捉の場面が発生したが、当事業所には凶器に対抗する装備が何もないので、それぞれの当事者は不審者の所持する凶器に対し、丸腰で対応せざる得なかった。

特に、不審者の追跡、接近は、不審者が所持している凶器の種類、数量等が不明であり、むやみに近づくことは極めて危険性の高い行為となるが、このことへの理解が十分とは言えなかった。

#### (4) 情報伝達の不備

移動する不審者に関する追跡情報については、通報先がわからない等の理由で、10月訓練時には現場の警官に犯人発見の情報が、また、11月訓練時には逃走中の不審者

情報が、事故対策本部に伝わらなかった。

さらに、当事業所内にPHS（内線携帯電話）の不感地帯があって連絡が通じない状況が発生した。

#### （５）テロ対応マニュアルの不徹底

当事業所にはテロ対応マニュアル（「核物質防護に係る緊急時行動マニュアル」）があるが、必ずしも十分でないというえ、核物質防護上の観点から一般の従業員には周知されていない。そのため、一般従業員はもとより事故対策本部の作業班員ですら、テロ事象に対し何をすればいいのかわからないまま有効な対応ができなかった。

### 4 課題と対応

#### （１）危機意識の保持

テロは、世界中のいかなる場所においても、いつ、どのような形で発生するかわからないという危機意識を、全従業員に対し強く自覚させるとともに、テロ対策について、教育・訓練を早急を実施する必要がある。

このため、事業所が行う訓練はもとより、各部センターにおいても、テロ、妨害、破壊行為を想定した訓練を計画し、危機管理意識の維持向上を図ることとする。

#### （２）テロ対応体制の構築

テロ発生時において、従業員にその周知が遅れたための人質の発生あるいは殺傷を防止するため、また被害が発生してしまった時にはその被害の拡大を防止するために、その発生及び不審者の追跡・逮捕、従業員の安全確保等に事業所として万全な体制で臨まなければならない。

このため、当事業所の警備員不足を補うため、事故対策本部組織を基に、従業員の中から追跡(巡回)班、施設を警戒する警備班等を組織し、不測の事態に備える体制を構築し、相対的な警備強化を図る。

また、各施設の責任者に対しても、不審者侵入等が発生した時には、従業員の安全と重要施設の警戒を行うべく、いろいろな事象ごとにあらかじめ周知・徹底しておく必要がある。

#### （３）テロ対応装備の整備

警察に通報を行った後、警察が来るまでの対応を見直し、また必要な装備等を整備する必要がある。現在、警備員には不審者及び不審車両の特定のために使用するカラーボール、護身用・捕捉用に警棒・さすまたを、各重要施設及び巡回・警備要員等にはさすまた以外にも盾、防刃チョッキ等の護身具等を配備することを検討している。

また、通常の事故等の通報先（９９９９）とは別に、不審者の動向等逐次情報の通報先をあらかじめ従業員に周知するとともに、PHS不感地帯についてはアンテナの増設を行う必要がある。

#### （４）マニュアルの整備、徹底

従来のテロ対応マニュアル（「核物質防護に係る緊急時行動マニュアル」）を発展させた一般従業員向けのマニュアルを作成し、一般従業員に対しテロ発生時には何をどうすればいいのかわかり、次に、テロを想定した訓練を繰り返し実施し、火災や臨界



事故対応のように、その習熟・徹底を図る必要がある。

## 5 おわりに

2回の訓練を実施し、予想どおりテロ対応の組織・体制の未整備及び資機材・装備の不備が明確になった。これらの訓練の目的は、それらの問題点を明らかにすることであり、その意味で十分に目的は達成した。しかし、制約の多い核燃料サイクル開発機構の現状で、今すぐに人的・物的に満足できる対策を施す余裕はない。

今重要なことは、テロ対応に限らず危機管理の根本が個々人の危機管理意識の持続にあることを自覚し、職員一人一人がテロに対し注意を怠らないことにある。

最後に、あれだけ衝撃的なテロ発生直後とはいえ、当事業所においてなじみのないテロ対応訓練がこのようにタイムリーに実施できたのは、教育・訓練に極めて熱心かつ協力的な事業所幹部及び職員の理解の賜物である。また、当事業所に駐在している関東管区機動隊におかれては、訓練に参加いただき実践さながらの対応をしていただいた。我々にとって大変貴重な経験を得ることができた。感謝申し上げます。

表 1

放火対応訓練（10 月月例訓練）時の主な時系列、シナリオ

時刻	内 容	対 応 者	シ ナ リ オ
15:40			不審者1名が第1食堂に侵入し、火炎瓶投擲、火災発生！ 火傷者1名（両足2度） 犯人は自転車で逃走 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">           &lt;火災状況&gt;            場所：厨房井コーナー            面積：10m<sup>2</sup>            状況：煙充満、消火器による消火困難         </div>
15:48	第1食堂不審者投げ込み、火災発生、ケガ人1名発生	情報班	自衛消防班1線延長放水 所救急車応急手当
15:57	村消防署及び*110番通報	情報班	火災鎮圧
15:58	所消防班出場	情報班	
16:00	所消防班現着 負傷者 ○○×子（ひたちライフ）		村消防車、救急車到着 村救急車負傷者搬送
16:02	正門・田向門閉鎖中、現在消火中 不審者情報・・・身長170cm、緑の帽子、男	情報班	
16:04	人員点呼指示	情報班	
16:05	*村消防到着	情報班	
16:09	火災鎮圧	情報班	
16:10	各施設の不審者確認依頼	情報班	鎮火 パトカー到着
16:12	展示館見学者帰宅措置完了	情報班	不審者発見
16:15	*村消防負傷者搬送	情報班	不審者逮捕
16:16	*西警パトカー到着	情報班	
16:18	*村消防鎮火確認	情報班	
16:21	人員点呼確認終了 見学者調査中	情報班	
16:21	*警察官コマンドルームに入る	情報班	
16:30	不審者発見	情報班	
16:34	警備員が、図書研修合同棟近くで不審者を取り押さえる	情報班	
16:36	訓練終了		

\*代替にて実施

表2

傷害対応訓練（11 月月例訓練）時の主な時系列、シナリオ

時刻	内容	対応者	シナリオ
10:30			<p>不審車両が警備員の制止を振り切り、正門から構内侵入 警備員は 9999 通報するとともに、機動隊にも通報する。</p> <p>通報を受けて事故対策本部を設置。</p> <p>一方、不審者は安管棟西側をうろついているところを従業員に発見されて、逆に持っていたナイフで従業員を刺して再度逃走する。</p> <p>これを受けて、現場は直接 119 番通報するとともに、9999 通報で状況を報告する。</p> <p>正門警備所では刺されたことを機動隊に通報する。</p> <p>暫くして、F 棟で不審車両が発見される（犯人は徒歩で逃走）。</p> <p>その後、犯人は田向門から偽造 ID カードを提示し逃走しようとするが、警備員に阻止され、駆けつけた機動隊（本物）に逮捕される。</p>
10:31	正門警備所より 9999 通報 10:30 頃不審者侵入、軽・水戸 50 つ 3362、色シルバー、乗員 1 名	情報班	
10:33	警察に 110 番通報	情報班	
10:35	事故対策本部員招集放送	情報班	
10:37	正門、田向門閉鎖 警備所の人腹刺される	情報班	
10:41	救急車要請	情報班	
10:43	消防班員招集、構内放送	消防・警備班	
10:47	救急車到着（負傷者は、放射線安全藤田、左脇腹を刺されている） 正門、田向門閉鎖完了	情報班	
10:48	消防班構内巡回指示	情報班	
10:49	本部長から警備班増強指示	消防・警備班	
10:50	各部センターあて現状確認を放送	情報班	
10:54	人員点呼と各部署閉鎖を構内放送	情報班	
10:55	F 棟付近で不審車両発見	情報班	
10:56	田向門方面に不審者追跡	情報班	
10:57	犯人特徴 茶色ジャンパー、メガネを掛け身長 160～170cm	情報班	
11:00	目撃情報 第 2 応用棟からプル燃方向に逃走中	地域対応班	
11:02	第 2 応用棟からプル燃方向に逃走中	情報班	
11:05	犯人を野球部部室付近で見つけた	情報班	
11:06	労基署に負傷者の通報	情報班	
11:17	不審者に「東海太郎」の名前、再処理入構証あり	情報班	
	機動隊に通報	情報班	
11:21	機動隊犯人逮捕	情報班	
11:22	その他不審者の確認を構内放送	情報班	
11:23	犯人逮捕構内放送	情報班	
11:25	再度、その他不審者の確認を構内放送	情報班	
11:30	訓練終了		

【写真2】

傷害対応訓練（11月月例訓練）



1. 不審車両進入



2. 安全管理棟で従業員が不審者発見



3. 逃走する不審者



4. 負傷者の救助（その1）



5. 負傷者の救助（その2）



6. 不審者の対応開始



7. 負傷者の救助（その3）



8. 救急車到着



9. 負傷者救助（その4）



10. 乗り捨てられた不審車両



11. 徒歩で逃走する不審者



12. 田向門で不審者捕捉



13．田向門で不審者捕捉（その2）



14．田向門で不審者捕捉（その3）



15．田向門で不審者捕捉（その4）



16．田向門で不審者捕捉（その5）



17．田向門で不審者捕捉（その6）



18．田向門で不審者捕捉（その7）



19. 機動隊到着



20. 捕捉開始



21. 捕捉開始 (その2)



22. 不審者逮捕



23. 機動隊撤収

**【写真1】**

**放火対応訓練（10月月例訓練）**



1．応援に駆け付けた現場対応班



2．消防班の放水



3．状況報告する食堂従業員



4．出動した消防班員



5．運営管理部現場指揮所